

下肢静脈瘤の3つの治療法を比較

下肢静脈瘤の治療として、超音波によるフォーム硬化療法とレーザーアブレーションが外科手術の代替療法として広く用いられているが、それらの有効性や安全性の比較については明らかにされていない。そこで本研究では英国内 11 施設においてランダム化試験を実施し、フォーム硬化療法、レーザーアブレーションを外科手術と比較した。

被験者は下肢静脈瘤のある患者 798 例で、治療後 6 カ月の疾病特異的 QOL および総合的 QOL を評価した。さらに合併症と臨床的成功についての評価も行った。その結果、疾病特異的 QOL はフォーム硬化療法群が外科手術群に比べわずかに劣っていたが、レーザーアブレーション群と外科手術群では同等であった。総合的 QOL については、3 群に有意差はみられなかった。合併症発生率は、フォーム硬化療法群で 6% となり外科手術群の 7% と同等であったが、レーザーアブレーション群では 1% と、外科手術群より有意に低率であった ($p < 0.001$)。重度有害事象の発生率は 3 群とも同等であった (約 3%)。臨床的成功の評価については 3 群で同等であったが、伏在静脈主幹部のアブレーション成功率については、フォーム硬化療法群が外科手術群より低かった ($p < 0.001$)。したがって、下肢静脈瘤の治療においてフォーム硬化療法、レーザーアブレーションを外科手術と比較すると、特異的 QOL がフォーム硬化療法でわずかに劣っていたが、総合的 QOL および臨床の有効性はいずれの治療も同等であることが示された。また、合併症発生率についてはレーザーアブレーションで低いことが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2014; 371(13): 1218-1227